

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ
『いもいりリビングらぼが創出する
持続可能な地域コミュニティ』

活動団体の活動地域：長野県長野市芋井
活動団体名：芋井地区住民自治協議会
中間支援主体名：認定特定非営利活動法人
長野県NPOセンター

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	芋井地区住民自治協議会
活動地域	長野県長野市芋井
専門性・強み	
長野市が設置した地区住民自治組織のひとつ。住民を主体に4部会(区長部会・福祉部会・教育部会・振興部会)で運営している。	

団体概要
芋井地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することが目的。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	認定特定非営利活動法人 長野県NPOセンター
活動地域	長野県
専門性・強み	
長野県における初のNPO法人として25周年を迎えた。 活動の4本柱は、①持続可能な地域づくりのためのパートナーシップ促進、②地域・社会へのつながり・参画促進と孤立防止、③社会変革のパートナーとなり得る組織へのコンサルティング、④持続可能な地域づくりに向けた住民自治の実践支援。	

団体概要
○ビジョン(目標)「みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう！」 ○ミッション(使命)「信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す」 長野県における市民社会の発展を目指し、民間非営利組織が地域や分野を越え幅広く活動するための基盤づくりを進めるとともに、企業や行政等多様な主体とのパートナーシップの形成促進と持続可能な地域づくりの推進を目的とする。

活動団体と地域の紹介

飯縄山麓の南斜面と飯綱高原からなる中山間地。
市街地から車で30分、首都圏
からもアクセス良好、新幹線で
1時間半ほど。
自然資源・山林資源が豊富。
りんごと高原野菜が特産品。

- 総面積: 32.6km²
- 人口: 1,880人 2025年4月1日
前年から40人減
- 世帯数: 953世帯 前年から2世帯減
- 高齢化率: 48.6% 前年比1.4%増



活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

多様な地区住民と地区外の関係人口が人材交流・協働することにより、持続可能な地域コミュニティを創出し、自然環境を再生・整備する。

自然・歴史・文化と向き合い 心豊かな田舎をつくる

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

多様な視点で持続可能な地域を探る場「芋井の未来を楽しくする場」として「いもいりビングらぼ」を2021年に設置している。地域住民と地区外の専門的知識やスキルを持った企業やNPO、市内の大学に通う学生など若者も巻き込んで多様な発想やノウハウを積極的に取り入れたいと考えている。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 1.草刈りバスターズ・芋井YOSAKU隊事業
- 2.コミュニティ拠点と地域売店を兼ねた「いもいりビングらぼ実験室」(仮称)の運営
- 3.シェアビレッジIIZUNAでの市民菜園事業・農業等体験プログラム(一部に、ながのまちづくり活動支援事業補助金を活用)

■ 地域の現状と課題

昭和20年代に約4,200人いた人口は一貫して減少し、現在は半減している。長野県NPOセンターが同地区の2003年～43年の人口の推移・推計をしたところ、今後20年間は一層の少子化、若者層の流出による生産年齢人口の減と後期高齢者の割合増、地域活動の担い手である前期高齢者の減が同時に進むことがわかった。また、公共交通サービスの減(バスの運行減)は小中高校生の通学、高齢者の移動や買い物問題を発生させている。

現在の住民自治協議会は、地区内の構成団体のみで編成されており、事業が内向的になりがち。役員は、70歳代後半の男性が中心で、女性の参加が少なく、若い世代の流出により担い手が不足している。また、地区内の公園等は整備が行き届かなくなり荒れて、訪れる人も少なくなっている。

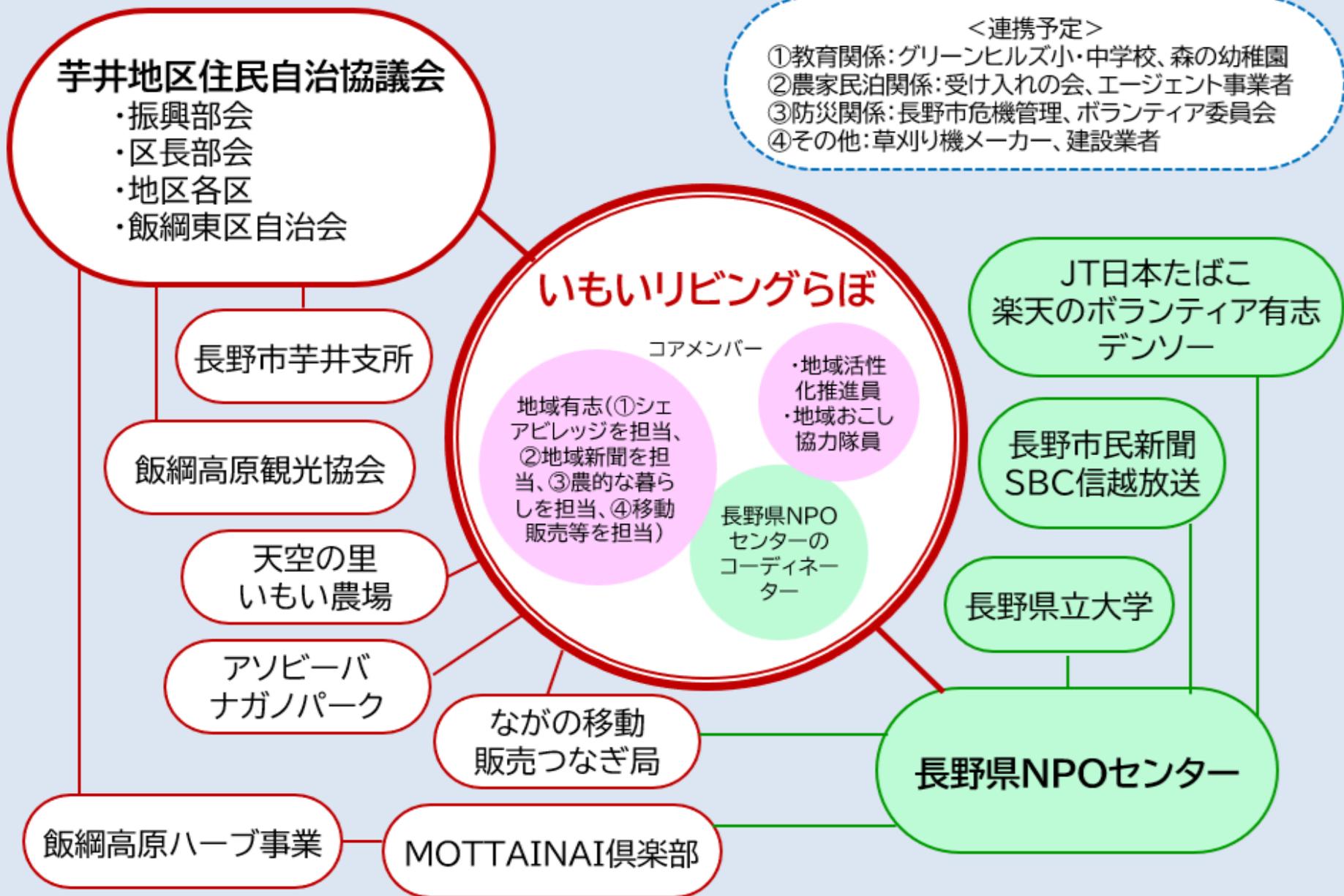
現時点のマングラ

「いもいリビングらぼ」がめざす持続可能な地域コミュニティのイメージ

やりたいこと



“地域プラットフォーム”のイメージ



ローカルSDGs 事業の詳細

事業名称：草刈りバスターズ		
あらすじ		
草刈り機の安全な使用方法を教える講座を開いて、地域でいっしょに草刈りできる人と、地域のファンを増やしたい。あわせて、草刈り機を使った爽快な体験を、旅の目的となるように提供したい。		
ストーリー		
草刈りは地域にある「やっかいごと」のひとつ。住民の高齢化で、地域の草刈りが年々困難になっている。自然環境と景観、地域の安全を守るためにも草刈り機を扱える人を増やすことが求められている。そのため、草刈り機の安全な使用方法と熟練の技・コツを教える講座(初心者向けコースとエキスパートコース)を開いて、地域でいっしょに草刈りできる人を増やすとともに、市街地から車で30分ほどにある標高1,000メートルという立地にある高原のファンを増やしたい。あわせて、草刈り機を使った爽快な体験が旅の目的となるように、地域内外の事業者と連携して宿泊と温泉、食事、近隣の観光などをセットにして提供したい。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	豊かな自然に囲まれて安心して暮らせる心豊かな田舎	安全に講座を進めるためには、受講者数に見合う講師(できればマンツーマン)が必要。 現在は年に1回の講座なので複数名の協力を得られているが、これが年に数回で受講生が多くなれば、講師の日程調整と謝金の用意が必要になる。
②課題	住民の高齢化で、地域の草を刈ることが困難になっている	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	地域の草を刈って自然環境と景観、地域の安全を守り、地域のファンを増やす	
④地域資源	次々と無限に生えてくる草、熟練の技を有する草刈り経験者	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	草刈りバスターズツアー:未経験者には爽快な草刈り体験を、ステップアップしたい人には熟練の技やコツを教える講座と、飯綱高原で楽しむ旅	
⑥担い手(Who)	地域の草刈り熟練者で組織するエキスパートチーム	
⑦事業で生じる循環	エキスパートチームの連携 講座の受講料と旅行に関わる代金(宿・食事・交通)の収入	企画と集客できる旅行会社。 宿と食事、交通などを提供する地域の事業者。
⑧事業で生じる成果	草刈りによる地域の環境と景観の保持、エキスパートチームの連携による地域の助け合い文化の醸成、講師としての副収入、地域ファンの獲得	再び地域を訪れるリピート企画。

3カ年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

- 草刈りバスターズ・芋井YOSAKU隊事業、コミュニティ拠点「いもいりビングらぼ実験室」、シェアビレッジIIZUNA事業がそれぞれ地域に定着し、経済的に自立できるようになっている。
- 関係するステークホルダーと地域内の住民ならびに関係人口とが相互に関係を強めている。

■ 2025年度末の状態目標

- 草刈りバスターズ・芋井YOSAKU隊の活動が地域に定着するとともに、旅行関係者などの協力を得て観光事業としての目途が立っている。
- コミュニティ拠点「いもいりビングらぼ実験室」のテスト運営で、継続と経済的自立の目途が立っている。
- 先進地の事例を学び活かしながらシェアビレッジIIZUNAの活動(市民菜園、月1回以上の農業等体験プログラム)が円滑に実施されている。

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

- 「いもいりビングらぼ」会合を年4回開催したが、参加者の拡大と「やりたいこと」を主体的に実現するためのチームづくりが課題。
- 「草刈りバスターズ・芋井YOSAKU隊」は、活動の中心を担うエキスパートTEAMが構成されたので、地域内外へ広報してさらに参加者と仲間を増やすことが課題。また、事業化に向けて、旅行関係者など新たなステークホルダーとの連携が課題。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

各地域の活動団体等が置かれている状況を俯瞰して、地域循環共生圏事業を通して蓄積した課題解決と地域づくりに活かせる取組や工夫、地域住民を対象にした広報やステークホルダーの拡大に向けた対応方法、ローカルSDGs事業の具体化などのノウハウを活かしながら、長野県NPOセンターのミッション(使命)である「信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す」を推進する。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

長野県NPOセンターのビジョン(目標)「みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう！」を実現するため、「持続可能な地域づくりに向けた住民自治の実践支援」で関わっている長野市内の中山間地「戸隠地域づくり協議会」・「大岡ふるさとづくり協議会」・「七二会里山整備利用推進協議会」の各活動支援と、県内の市民活動サポートセンターなどが参加する「中間支援組織ネットワーク」を活かして他地域へ普及させ、県内のより多くの地域が持続可能で100年先も暮らしたいと思えるようになることに貢献していく。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

地域内外の新たな参加者とステークホルダーを巻き込んで、いもいりビングらぼが活性化し、草刈りバスターズ・YOSAKU隊、いもいりビングらぼ実験室、シェアビレッジIIZUNAなどの活動を進めながら、将来に続く可能性を実感している状態をめざす。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動を推進する事務局体制の強化と、多様な人が関われる仕組みづくりを進めて、地域外の人材と資源を巻き込むことをもっと考えていく必要がある。	「いもいりビングらぼ」会合を中心に、新たな参加者とステークホルダーを加えることで活動を活性化させる。 高校生・大学生向け地域活動体験プログラム「ながの地域まるごとキャンパス」に登録して参加者を募り、若者の声を聞きながら取組を進める。
②	多様な人が参加するためにも活動の拠点になる場所が身近に必要なとの思いが強くなっている。 また、地域内に商店がないため、冷凍品や日用品なども扱えれば便利になると考えている。	みんなが気軽に立ち寄れるコミュニティ拠点と地域売店を兼ねた「いもいりビングらぼ実験室」(仮称)を試行的に運営し、地域のニーズに応えながら将来的に自立できるかを検証する。
③	草刈りバスターズ・YOSAKU隊という地域環境の維持・改善に役立っている活動が地域内外にあまり知られていないので、しっかり「見せる」ことが必要。草刈りが困難になっている地域も対象に、活動範囲を広げていきたい。	事業1年目に講座資料の編集(動画と印刷物)、開催案内の広報、のぼり旗とビブス作成、活動の取材と情報発信に取り組んだ。取組をさらに広く知らせ、参加者を募るため、長野市民新聞の「お知らせ」欄を活用するとともに、広告を掲載する。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		いもいりビングらぼ事務局メンバー打ち合わせ(毎月)										
		いもいりビングらぼ会合(毎月第3金曜日を基本に開催)										
		5月16日 第1回										
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】			6月7日 養成講座	草刈りバスターズ				YOSAKU隊			合同総会	
				地域活動(月2~3回程度)								
				いもいりビングらぼ実験室の試行運営								
				シェアビレッジIIZUNA(月に1回以上の体験プログラム)								
			先進地視察									
中間支援主体の支援・取組計画		いもいりビングらぼ事務局の体制強化支援と広報支援										
		・企画相談 ・資料作成 ・会合のコーディネート ・ちらし案作成 ・広報など										